

(仮称) 今ノ山風力発電事業に係る
高知県環境影響評価技術審査会
議 事 録

日 時：令和2年1月14日（火）14時00分から16時00分

場 所：高知共済会館 COMMUNITY SQUARE 3階「藤」

高知県林業振興・環境部 環境共生課

会次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議事録署名委員の選出
- 4 協議事項
 - (1) 経過報告
 - (2) 方法書等について事業者説明
 - (3) 質疑・応答
- 5 連絡事項
- 6 閉会

委員総数及び出席委員数

委員総数：14名

出席委員：11名

出席委員名簿：石川 慎吾、石川 妙子、岡林 南洋、岡部 早苗、岡村 眞、
康 峪梅、関田 諭子、西村 公志、藤川 和美、松岡 裕美、
渡部 孝

事務局出席者

高知県林業振興・環境部 環境共生課

- ・課長 三浦 裕司
- ・課長補佐 松尾 文昭
- ・チーフ 坂田 修一
- ・主事 濱渦 克樹
- ・技師 川村 有希

事業者

株式会社ジャパンウィンドエンジニアリング

(関係事業者)

一般財団法人日本気象協会

1 開会、2 挨拶

事務局： 三浦課長	環境共生課の三浦課長より開会の挨拶。
--------------	--------------------

3 議事録署名委員の選出

岡村会長	岡部早苗委員、渡部孝委員が議事録署名人に選出。
------	-------------------------

4 協議事項

(1) 経過報告等についての事務局説明

事務局： 濱渦	本事業に関する環境アセスメントの手續及び経過報告等について説明。
------------	----------------------------------

(2) 方法書等についての事業者説明

事業者： (一財)日本気象協会	(一財)日本気象協会から配慮書から方法書への変更点、方法書についての意見の概要と事業者の見解、方法書に対する事前意見への事業者見解、フォトモンタージュについて説明。
--------------------	--

(3) 質疑・応答

石川妙子委員	<p>74ページに植生図があり、重要なアカガシ群落が載っている。先ほどの説明で、重要な森林があるところから風車の配置位置を避けたとのことであるが、植生図と併せて見てみると、その重要な森林の辺縁部と風車建設予定地が接している。接している風車は撤去できないのか。</p> <p>また、先ほど見せていただいたフォトモンタージュに関連して、足摺半島は高知県の重要な観光地になっていると思うが、足摺半島からはどのように見えるのか。</p> <p>それから、先ほどのフォトモンタージュは曇り空であり、あまり影響が無いようにも見えるが、晴れた状態でどのように見えるのか示していただきたい。</p>
(株)ジャパンウィンド エンジニアリング	まず、際の部分の風車の位置について、こちらとしては植生に極力影響が無いよう配置したつもりであるが、もし際の部分にある風車によって群落に大きな影響があるようであれば、配置を考えることになると思うが、今後の調査で群落にそれほど影響が無いということが分かれば、こちらの位置で進めたいと考えている。
石川妙子委員	群落自体に影響は無いかもしれないが、群落の中は生物多様性が高いところである。際に風車が建つということは、この群落に生息する動物に影響が出る可能性があるのではないかと懸念している。

(株)ジャパンウィンド エンジニアリング	その点も含めて、しっかりと調査をしていく。
(一財)日本気象協会	<p>続いて、足摺岬からの眺望について、方法書の 312 ページに景観の調査地点の図面を記載しており、足摺岬は図面の右下に位置している。このページの青の点線について、風力発電機の設置予定範囲から約 11.7 k m の範囲を囲っており垂直視野角 1 度以上で視認される可能性のある範囲を示している。こちらの範囲外は 1 度を下回り、景観上は大きな影響は無いだろうと考えており、今回の足摺岬の大部分は範囲外となると考えている。</p> <p>また、眺望景観として親しまれているというような場所があれば、具体的に教えていただきたい。</p>
事務局： 三浦課長	その点については、事務局から関係自治体等と話をし事業者と調整させていただく。
(一財)日本気象協会	最後に、フォトモンタージュの背景の天候について、今後また現地で写真を撮影することになるが、その際にはできるだけ青空が背景となるような日を狙って撮影を行い、フォトモンタージュを作成していく。
石川妙子委員	背景を青空に加工することはできないのか。
(一財)日本気象協会	加工することはできるが、可能であれば現地の青空を使用したいと考えているので、まずは現地調査で青空を背景とした写真を撮影し、もしそれが難しいようであれば、背景を青くするような加工をして示したいと考えている。
(株)ジャパンウィンド エンジニアリング	<p>それから、配慮書から方法書に変更した際に、風車の大きさを変えており、風車の基数は減らしたが、事業範囲が少し南に延びている。これは、風車の大きさを変えたことに併せて離隔距離を取ったのだが、こちらとしては、影響を考えてできるだけ離隔距離を縮める方向で検討している。</p> <p>そういった意味では、竜串海岸からの距離が現在 2.9 k m となっているが、もう少し離隔できるように南の 3 基から 5 基までを含めてできるだけ影響が無い形で北へ上げたいと考えており、このあたりは今後、準備書に反映させていきたいと考えている。現時点でも、この 3 基が無くなるような形になると、恐らく竜串海岸から大きく見える 3 基は無くなり、さらにその北側の 2 基が無くなると、ほぼほぼ見えなくなるのではないかと考える。そうすると、先ほどの足摺岬からも離れると思うので、そのあたりも含めて今後検討していく。</p>

岡村会長	このフォトモンタージュでもやはり支柱が目立つかと思われる。足摺は真ん中を標高の高い道路が通っているかと思われるので、この辺の調査をお願いしたい。
岡林委員	同じ区域内に他事業の計画が出ているが、他事業との連絡はどのように進んでいるのか。
(株)ジャパンウインドエンジニアリング	こちらからは連絡はとっていない。ただ、現在、事業計画認定を経済産業省へ提出し、受理されている状況である。受理されている範囲では、恐らく林野庁の方も承知してもらえないのではないかと考えており、その後、同一事業範囲の中で、別の事業を受理するというのは重複案件となるため、事業は進まないのでは無いかと思う。そのため、他事業者は計画地を変えなければ事業はできないのではと考えている。この事業計画認定は4月1日に公表されるもので、当方は昨年12月に提出しており、公表されるまでの間ははっきりしないが、公表後は何らかの調整が必要になるかと考えている。こちらとしては事業計画地を変更する予定はないので、他事業者が動かすことになるのではと考えている。
岡林委員	健康被害について、最新の情報で対応していくと回答されていたが、風力発電の騒音、超低周波音について最新の情報とはどのようなものがあるのか。
(一財)日本気象協会	環境省の方で、風車騒音についてマニュアルを出しており、日本ではこれが最新の知見に該当すると考えている。そのマニュアルでは、いわゆる超低周波音については、健康被害との科学的因果関係が分かるまでの十分なデータは得られなかったとある。風車の騒音については、現況値からの増分プラス5デシベルという考え方を提示して、そちらを用いて影響について評価するよう指針が示されているため、基本的にはそちらの指針に基づいて評価を行うつもりである。
岡林委員	ということは、最新の情報というのは環境省からでる情報ということか。
(一財)日本気象協会	そのとおり。
岡林委員	前回の審査会でも意見として出ていたが、県の方で、この委員の中で、特に超低周波音について健康にどのように影響するのか分かる方を委員の中に入れていただくと、審査できるかと思うので、県へ改めてお願いする。
石川慎吾委員	先ほどの岡林委員の意見に関連して、三原村に卒業生がいて、超低周

	<p>波音が非常に心配などの相談を受けた。この資料3、意見書4のNo.8の ところにも書いているが、超低周波音等による被害を住民の方は非常に 心配されている。</p> <p>前回の審査会でも申し上げたが、環境省の指針からいうと、住民に対 しそれ以上の具体的な説明はなされないような感じを受けた。そのた め、前回の審査会では、可能であれば同じような距離、同じような大き さの風車へ連れて行って体験してもらおうというようなことは出来るの では無いかと他事業者へ申し上げたが、そういったことはできるのか。</p>
(株)ジャパンウィンド エンジニアリング	<p>住民からそのような要望があれば十分に対応したいと考えている。 こちらとしては、これまで風力発電所を設置してきた際に、環境省から このような指針が出ているという説明をしたうえで、耳に聞こえる騒 音等については、かなり個人差があると考えており、そういったことに 対しては、個々のレベルに応じて環境影響評価の調査で影響するとい うところでは無かったとしても、個別に対応していきたいと住民の方 々には説明している。風車から距離が近いから騒音の影響が大きい というわけではなく、離れていても個人差や家の立て付け等により影 響を訴える方もいる。それぞれ個々のレベルに応じた対応をしていき たいという説明はしている。</p>
渡部委員	<p>今の同じ意見書No.8の事業者の見解の最後のところであるが、今後 の環境影響評価手続を通じ、超低周波音を含めた音環境について、影響 の低減に努めてまいりますとあるが、具体的にどのような方法がある のか。</p>
(株)ジャパンウィンド エンジニアリング	<p>先ほども申し上げたように、できる限り住民と風車からの距離を離 隔するであったり、風車の機種にもよるが、外に熱を排出するファンな どが問題になったりする例もあるので、そういった場合には遮音のルー バーの設置をするなどの機器側の対策を行うといったことが考えら れる。また、設置後は、受音側である住宅への対策といったことが対応 として考えられるため、個々の状況を考えて対応していきたいと考えて いる。</p>
渡部委員	<p>住宅側への対応というのも、事業者側で行っていただけるというこ とか。</p>
(株)ジャパンウィンド エンジニアリング	<p>そこのところも、一定の線を引くということとはできないため、非常に デリケートなことになるかと思うが、それぞれの個々の家の状況や訴 えを聞いて、場合によっては窓を二重サッシにするだとか、そういった ことを含めて対応してきた例はある。</p>

岡村会長	<p>現在、高知県で立て続けにこの審査会が行われており、我々も少しずつ勉強をしてきている中で、機器のナセルの方からも結構な騒音が出ているということが分かったので、そういった対応もぜひよろしくお願ひしたい。</p> <p>また、今回の風車の機種は、高さが約 200m と陸上ではかなり大型であるが、このようなものの設置場所は他にどこかあるのか。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>この機種に関しては、まだ国内に導入例が無いため、国内初になる。海外では、タイやオランダ、オーストラリアで既に建設が始まっており、そういったところは事業者としてしっかり確認してみたいと考えている。</p>
岡村会長	<p>オランダの場合は洋上か。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>陸上である。</p>
岡林委員	<p>200m規模で国内初ということは、予測できないことが起こるかもしれないということもあるかと思うが、そういったことは住民の方にも十分説明しているのか。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>建設にあたっては、ウィンドファーム認証というものをしっかりとらないといけない。従来は、建築確認申請ということで基礎部分だけで良かったが、現在はブレードも含めた本体や局地の風速も併せて認証を受けなければならず、半年以上に及ぶ相当厳しい第三者の審査を受けることになるため、まずはその認証を取れることが重要だと考えている。</p>
岡林委員	<p>認証のことではなく、住民の方にそういったことを説明しているのか。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>住民の方々にウィンドファーム認証の説明はしている。</p>
岡林委員	<p>国内初ということも説明しているのか。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>そちらも説明している。</p>
西村委員	<p>3点ほど意見を述べさせていただく。まず、先ほど石川妙子委員から鳥獣保護区と際の部分を外せないかといった意見があったが、確かに風車の設置位置が事業実施区域から外れるかもしれないが、ここには風車や機材を運ぶための搬入路が付くことになるかと思うため、ぜひ</p>

	<p>その搬入路の工事に際しては、特段の配慮をお願いしたい。</p> <p>それから、クマタカの記載があったかと思うが、クマタカについては、環境省の猛禽類調査のマニュアルに従って調査していただくのが、大前提であり、ちょうど、徳島で現在稼働しているウィンドファームがあり、そこで当初は営巣中心域ではなかったところのクマタカの2ペアがウィンドファームの近くからいなくなってしまうということがあった。当然事業者の方は既にご存じだとは思いますが、そういったことに配慮していただいて十分な調査をお願いしたい。</p> <p>最後に、他事業があるということであるが、4月以降に他事業と並行して事業を進めていくということになれば、お互い情報共有をしていただき、図面等に他事業との風車の位置関係を入れて、影響評価の調査をするかどうかは別として、地図等に他事業の風車の位置等を入れていただいて、一目でどのような状況なのかを分かる資料を作っていただきたい。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>まず、一つ目の搬入路について、こちらの方は既設の林道が真ん中を通っており、こちらを利用することになるため、特に改めて搬入路を作るということでは無く、あくまでも搬入時は林道を利用することになる。</p>
西村委員	<p>尾根伝いに林道がずっと入っているということであるか。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>そのとおり。</p>
西村委員	<p>そういうことであれば、林道等の拡幅工事は必要になるのか。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>サイト内について、計画の西側のほとんどは既設の林道になる。南側については、尾根から下の3分の1は既設の林道になり、残りは新設になる。東側の大規模林道から更に東に抜けて3分の1は既設林道になり、残りは新設といったことになる。西側のほとんどは尾根沿いに林道が走っている状況になる。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>そのため、群落等に近い部分では既設の林道を使うことになる。</p>
(一財)日本気象協会	<p>二点目のクマタカの件について、委員から指摘があったように調査及び評価については、環境省のマニュアルに準拠して行っていくように考えている。</p> <p>加えて、既に稼働している部分でのクマタカへの影響というものについては先ほど指摘していただいた事例などもあり、それ以外にもここ何年かで、風車が全国的に稼働している中で、クマタカに対する影響というものが事後調査で公表されているので、そういったところも含めて、たとえば営巣中心域から離れていたとしても、例えば餌場等で行動</p>

	<p>圏に影響がでる可能性もあるため、そういったことも考慮しながら、最終的に評価をしていきたいと考えている。</p>
西村委員	<p>一つ言い抜けていたが、専門家の方にヒアリングされているところで、サシバの調査をすれば出てくると思うが、恐らくハチクマもいると思うので、ハチクマ等についても注意して調査していただきたい。</p>
(一財)日本気象協会	<p>三点目の意見の他事業の風車位置の情報については、次の準備書段階で示せるようにさせていただく。</p>
(一財)日本気象協会	<p>ハチクマについても対象としていない訳では無いのでしっかりと把握していきたいと考えている。</p>
岡部委員	<p>先ほど林道の拡幅があるかどうかの意見があったが、それはどこか図面で示されているのか。今、方法書 114 ページの主な道路の状況の図を見ているが、これを見ている限りではここに近づくことはできないような形になっているので、どこから搬入する予定なのか、その林道がどこまで付いていて、どこを整備しなければならないのか等が図面を見る限りでは分かりにくいと思われる。</p> <p>住民の方々の気持ちになってみると、確かに音や景観の問題も大きいと思うが、周辺道路が拡幅されて他の目的に使われたり、交通量が増えたりすることは地域の方々にとってはとても影響が大きいことだと思われるため、きちんと取付道路や、機材の搬入に使う道路等を詳しく示していただきたい。</p>
(株)ジャパンウインドエンジニアリング	<p>今指摘していただいた部分については、次の準備書のところで林道と拡幅する道路や新たにに取り付ける道路を明確に示させていただく。</p> <p>それから、手前が林道になるが、林道は鍵で封鎖されており、一般の方は入れないようになっているため、恐らくこの管理は将来しっかりしていくことになるかと考えているが、そのところはまた確認していく。</p>
岡村会長	<p>次の準備書では、既存の道路と新たにに取り付ける道路をはっきり区別したものを示していただきたい。</p>
岡林委員	<p>超低周波音の健康被害について、新エネルギー推進課から出ている質問に対する答えとして、国の基準だけでは無く、超低周波音に起因する健康への影響について最新の知見に基づいて評価を行う事を検討すると書かれているが、国の基準というはっきりしたものがないが、先ほど言われているような環境省から出ている指針に基づくということであったが、このように書いている以上は、もっと新しい情報が出ている</p>

	<p>と思う。事業者にあまり無理なことをお願いするというのは難しいかもしれないが、こういう事業をやる以上は、本当の最新の情報を把握して取り組んでいただきたいと思う。</p>
石川妙子委員	<p>住民からの意見書No.9の土砂の点について、取付道路内への利用や土捨場内にて処分する予定だと書かれているが、土捨場はまだ決定されてないかと思う。過去の色々なアセスメントの事例で、土捨場についての検証というのはあまり無かったが、過去の自分が知っている事例で、非常に生物多様性豊かな谷があったが、そこを潰して土捨場にしてしまったということがあった。もし、土捨場をどこかの谷を埋め立てて造るということになればそういった調査も必要になるかと思う。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>土捨場等について、こちらは国有林野内の工事になるため、その点については、どこに造るのかやどれだけの影響を及ぼすのかについて、林野にしっかり説明をして理解してもらえないと造れないようになっている。今のところは、どこに造るのかについてまでは計画が進んでいないが、場所等についてはまた計画が進んでから説明させていただくことになるかと思う。</p>
岡村会長	<p>少し気になる記述があるが、住民からの意見のNo.9について、10トンドンプ300万台と書かれているが、このところは実際どうなのか。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>この記述は間違っている。</p>
岡村会長	<p>そういうことであれば、見解の中で否定していただいた方が良くかと思うのでそこはよろしく願います。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>了解した。</p>
康委員	<p>先ほどの意見に関連して、No.10の耐用年数はそのあたりだとは思いますが、撤去費用はどうなのか。これは高すぎるのか。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>金額の根拠は無いかと思う。1億以上かかるということはない。</p>
康委員	<p>そういうことであれば先ほどと同じく見解で対応していただきたい。</p>
藤川委員	<p>植物の点について、調査に当たって、着生のものがこの周辺では多いので、着生の植物の希少種について、風車が出来ることにより乾燥等の影響が出てくるかと思う。方法書の調査方法で、専門家の意見として書いているがそういった点について注意していただくとともに、見つけ</p>

	<p>るのはかなり大変だと思うが、じっくりと時間をかけての調査をお願いしたい。</p> <p>また、風がどのくらい通るのかについても予測して着生の植物等の影響も考えていただきたい。</p> <p>今回、住民からの意見のなかで、非常に厳しい意見が多いと思っており、なかには同意が得られないだとか、白紙撤回を求めるだとかの意見があった。やはり被害等についても、住民が納得していないとストレス要因にも関わってくるかと思うので、住民からよく理解していただいたうえで事業が開始されないとまずいかと思う。見解の方では周知しますと書かれているが、現在意見も少ないと思うので、聞いていただく方を増やすような仕組み作りをお願いしたいと思う。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>前回の時に、少し触れたが周知方法が若干足りなかったのでは無いかというような意見をいただいております、正式な住民説明会は2回行ったが、それとはまた別に説明会を行った。その際にも、色々な意見を受けたが、こういった説明会を開くと、意見のある方がやはり多いため、ネガティブな意見があり、こちらとしてもそれは理解している。ただ、今回四国で説明会を行った際には、はっきりと賛成だという意見を言う方もおり、この点については事業者として非常に珍しいと感じた。ただ、先ほど委員からも指摘があったように、住民の方々に十分に意見をいただけるような周知方法については、次回もう少し工夫を加えた説明会にしていきたいと考えている。</p>
松岡委員	<p>ここは、今までアセスメントの審査会をしていく中で、何回か事業が立ち消えになっていった場所である。立ち消えになった事実をご存じで、ここで新しく事業の計画をしているかと思うが、今までの事業で何が問題で、それをどのように克服できると考えたから事業をしようとしたのかについて、教えていただきたい。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>これまでの事業者の一番のネックは恐らく電力の連系だと考えており、連系地点が近くに無く、遠くに運ぶ際にはそれなりの規模が必要であり、それに見合うような計画が出来ていなかったということだと考えている。そういった意味で、こちらとしては、事業規模を大きくしており、連系先についても電力会社と協議も終わったということで、事業の確実性はこれまでの事業者と比べて格段に上がっていると考えている。</p> <p>したがって、これまでは現段階の時点で、恐らく立ち消えになっていったかと思うが、ここから住民の方々からの理解を得たうえで、しっかり進めさせていただきたいと思う。</p>

松岡委員	<p>そうすると、規模がある程度おおきくなっており、住民の方々が心配しているのは、騒音と超低周波音の点だと思うが、人間に影響が出るか出ないか分かるようにするのは非常に大変なことだと思う。植物や鳥類等の影響について、影響があるのか無いのかを判断するのはまだ出来るかと思うが、人間の場合では影響が出るか出ないかの判断は非常に分かりづらく、サイエンティフィックにはなかなか白黒はっきりしておらず、例えば放射能やアルコール等の閾値については未だに議論されているところである。そのため、分からないということはあくまで分からないということであるため、そのダークな部分について認識していただきたいと思う。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>風力発電所が国内に建ってから、もう 20 年近くになり、今回の計画でも立ち上がってから 20 年間で事業期間としている。これまでの 20 年間で健康被害が著しく出ているのかというと、そういった話は今のところ聞いていない。騒音、超低周波音というところだけでいうと、自動車等の乗り物からも当然出ており、そういったことを考えると、恐らく直接的な影響という意味では、あまり影響しないのではないのかと考えている。ただ、先ほど松岡委員が言われているように分からないという部分もあるため、ダークと言えどダークであるが、事業期間が 20 年ということであり、未来永劫建つというわけでは無いため、その間しっかりと検証も出来ていくのではないかと思う。逆に、それで影響が無いということになれば、再生可能エネルギーとして有能であるため、しっかりと社会の中に組み込まれていくようになれば良いかと考えている。</p>
岡村会長	<p>ただ、従来の風車と比べると最大の径を持つ規模であり、これもまた未知の領域かと思われるため、そこで断定はあまりなさらない方が、良いかと思う。</p> <p>ブレード等に危惧して調査を進めていただくとともに、先ほど岡林委員から出た意見についても、環境省が良いからいいんだという断定的な考え方は無く、絶えず最新の知見を出していただいて、色々な意見を含めて考慮していただきたいと思う。</p>
(株)ジャパンウィンドエンジニアリング	<p>了解した。ありがとうございます。</p>
石川愼吾委員	<p>要約書 79 ページの植物の調査時期について、春、夏、秋の 3 季とあるが、早春季も入れた方が良いかと思う。春は 5 月に、早春季は 3 月にということで入れてはどうかと思う。</p>
(一財)日本気象協会	<p>調査時期の件について、早春季も検討していく。</p>

石川妙子委員	水生昆虫の調査時期について、魚類と一緒に水生昆虫を調査するということであるが、魚類は3月頃から活発になるが、底生動物は早春季の2月終わりから3月初めくらいが終齢幼虫がそろってくる時期であり多くの種が採集できるので、調査は2月後半も入れても良いかと思う。4月は羽化して出て行くと思うため、2月からの方が調査時期としてより適正かと思う。
(一財)日本気象協会	こちらの調査時期についても検討していく。
岡林委員	騒音の調査期間について、要約書の47ページに調査時期は2季とあるが、これは春夏秋冬のどれにあたるのか。
(一財)日本気象協会	現状は春と秋の2回を考えている。
岡林委員	冬と夏は行わないのか。
(一財)日本気象協会	<p>そのように考えている。方法書本編に周辺の地域気象観測所の風配図を23ページと25ページに記載しているが、特徴的な風の状況として、例えば23ページの中村気象観測所の方でいうと、だいたい春夏秋は同じ風の吹き方をしているが、冬になると多少西風が卓越するという形である。また、35ページの宿毛特別気象観測所については、晩秋から冬にかけて特徴的な風の吹き方をしている。</p> <p>基本的には、夏場に音を拾おうとすると、虫の音を拾ってしまったりするため、地域の音を適切に拾うという考え方からすると、適切ではないと思う。</p> <p>今回のように、季節において概ね風況が変わらないような場合であれば、必ずしも四季の調査は必要でないと環境省の調査マニュアルにも載っているため、そちらに則った形で、今回は四季では無く二季の調査を考えている。</p> <p>そういったなかで、具体的な調査の月については今後検討していきたいと考えている。</p>
岡林委員	風の状況だけだと、そういうことになるかと思うが、その他の気象情報が色々あるかと思う。今回気象関係の方々もおられると思うが、気象によって音や季節等と関係はあるのか。
(一財)日本気象協会	今回、風車騒音のマニュアルが環境省から出ていたと話させていただいた。そちらの測定の条件として、風車が回るような風が吹いている時の音を取りなさいというものが定まっている。当然、風車が回る状態であるため、どの季節で測ったとしても、風の雑音を拾ってしまう環境ではある。そのような中で、実際に風を取っていくものであるため、

	基本的には周辺地域の四季による音の違いがあれば、当然四季の調査が必要にはなるが、今回のように四季の風配図が似通っているようであれば、二季で十分だと判断している。
岡村会長	風車は、実際どのくらい回ることになるのか。
(株)ジャパンウインドエンジニアリング	稼働率は25%程度だと考えている。風況が良いところだと28%まで上がるが、24%以上あれば事業採算性に載ってくるのでは無いかと考えている。
岡部委員	高さが200mというと、自分は建築関係であるため建物基準で換算してしまうが、そうすると60階建てのビルの規模になり、それが36件建つことになる。そんなところで普通ビル風などが出ると思うが、現況の風だけで判断できるのか。36基建つことによって別の風が出来るようなことがあるのではないか。
(株)ジャパンウインドエンジニアリング	ビルは表面積が大きいですが、風車はタワー型でありそれほど大きなものではない。また風車と風車は離隔距離を250m以上離れることになっており、当然その地で吹く風を捉えて回ることになっている。そのため、風を受けて回っている訳であり、風車の後方に位置する場合は風が弱まることはあっても強まることはないため、その風車の影響によって多少風が弱まることはあるが、ビル風のように強まることは無いと考えている。
岡村会長	他に意見は無いか。無いようであれば本日の委員からの意見を踏まえ、諮問に対する答申としてまとめていく。

5 連絡事項

事務局： 濱渦	連絡事項について説明。
------------	-------------

6 閉会

司会： 坂田チーフ	本日の協議を終了する。
--------------	-------------